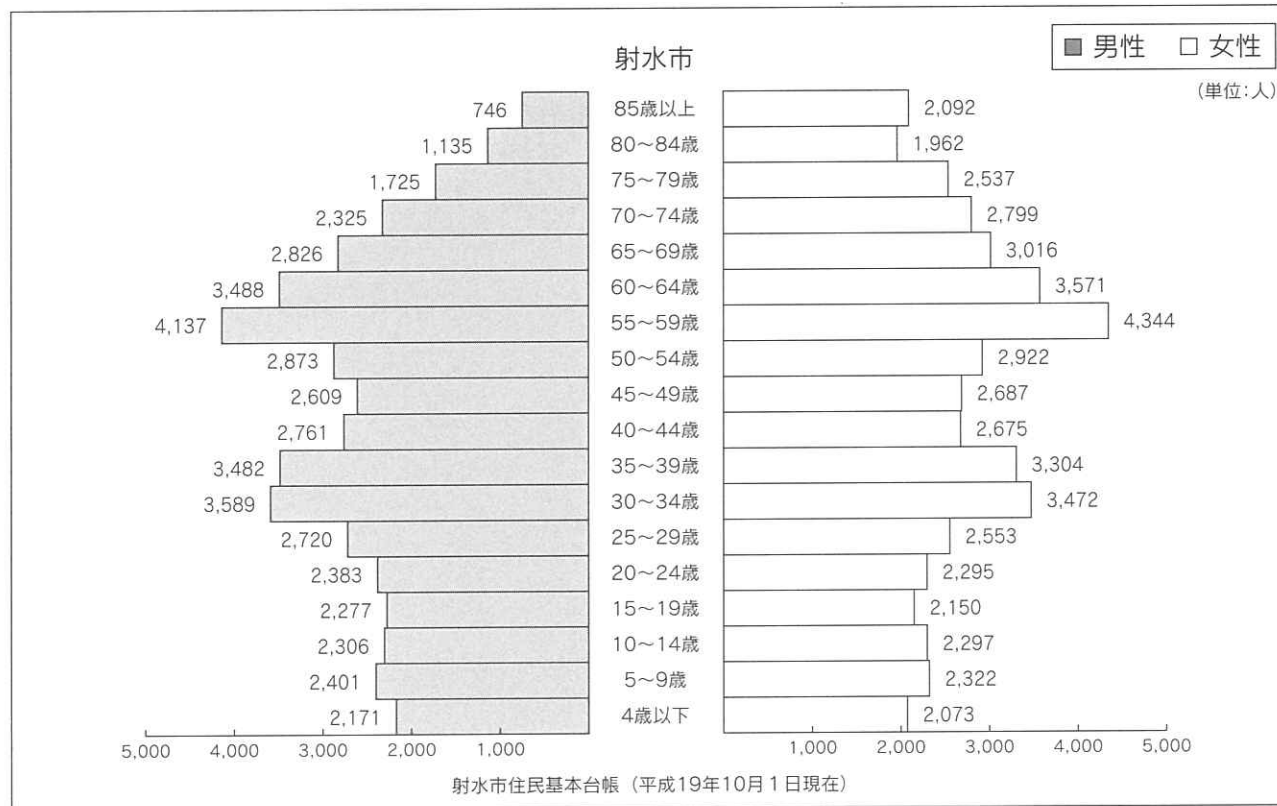
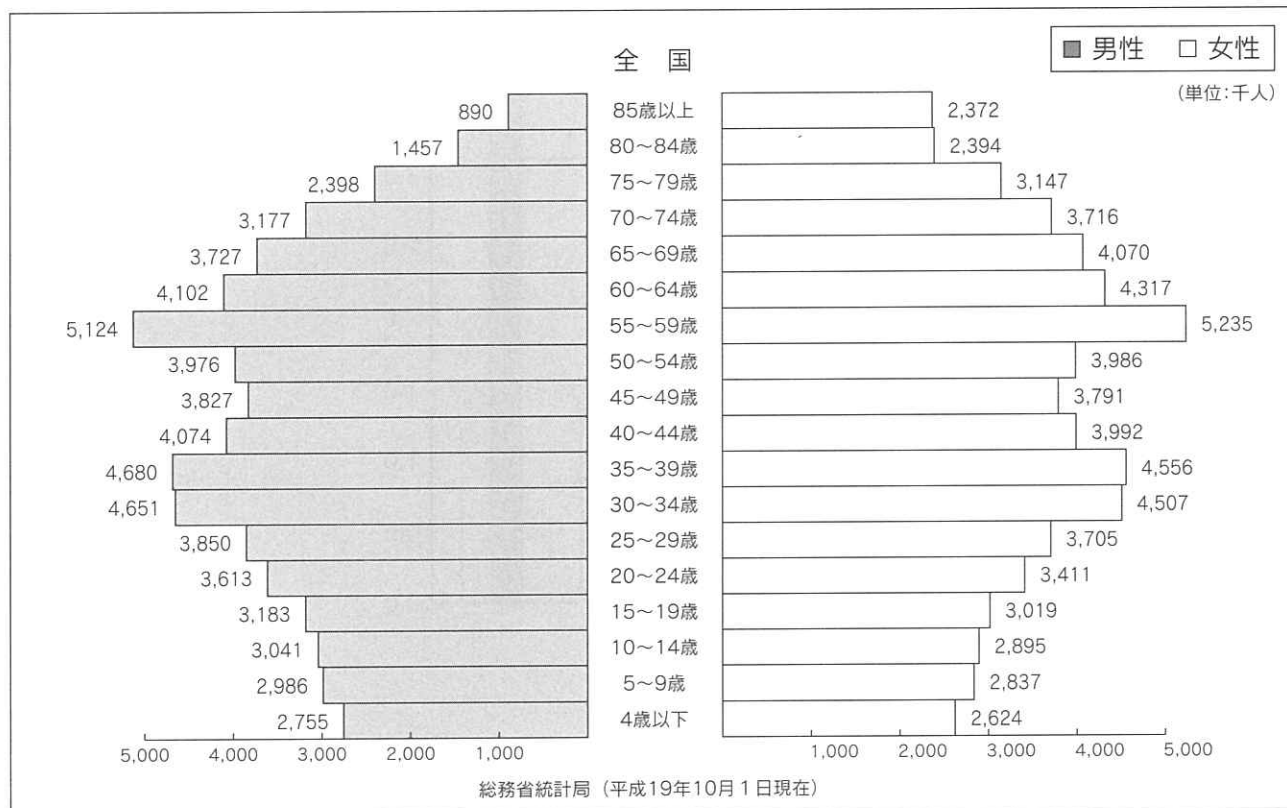


第2章 射水市民の健康にかかわる状況

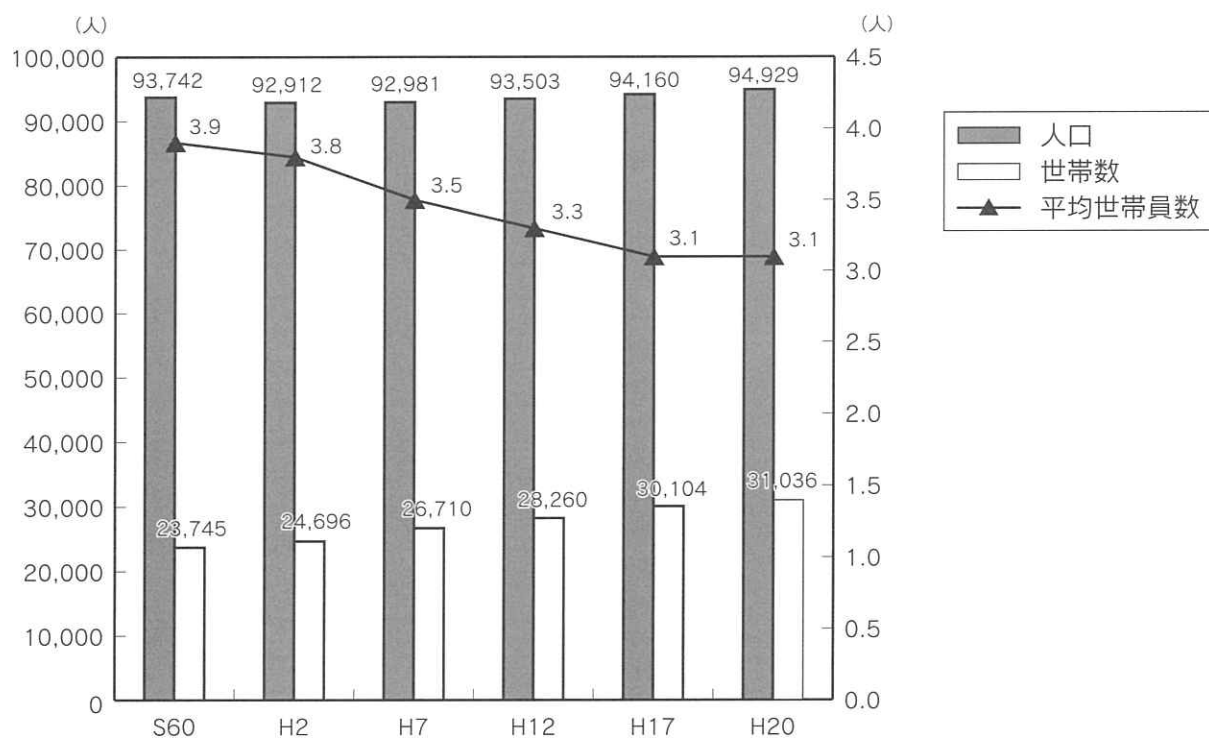
1 人口構造

(1) 人口ピラミッド



平成19年の市の人口は95,025人であり、国と類似した人口ピラミッドの型を示しています。

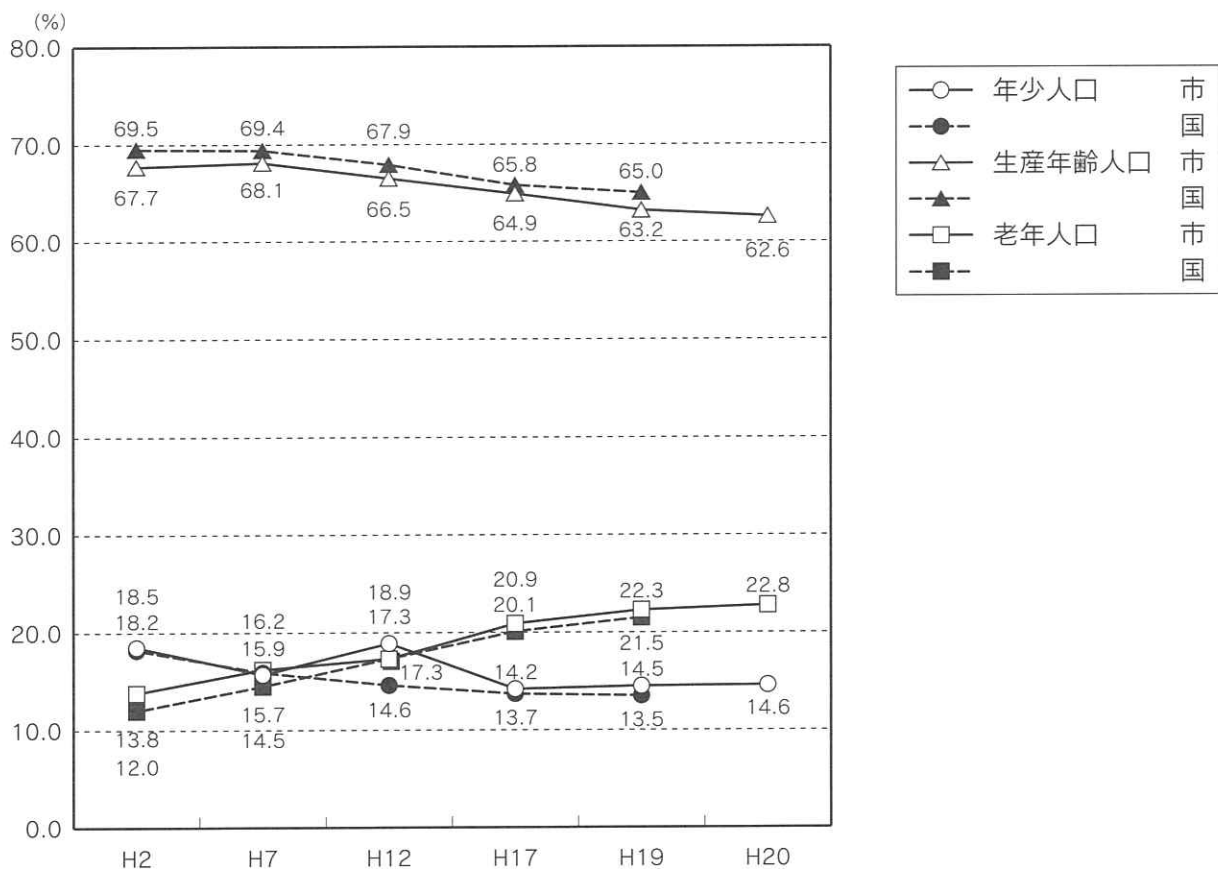
(2) 人口及び世帯数の推移



S60～H17国勢調査
H20射水市住民基本台帳 (H20年10月1日現在)

平成20年の市の世帯数は31,036世帯であり、年々増加傾向にあります。しかし、世帯数の伸びに比べ、人口は横ばい傾向にあるので、1世帯当たりの平均世帯員数は減少し、核家族化が進んでいます。

(3) 年齢階級別人口割合の推移



S60～H17国勢調査
H19・20 医務課 人口動態統計

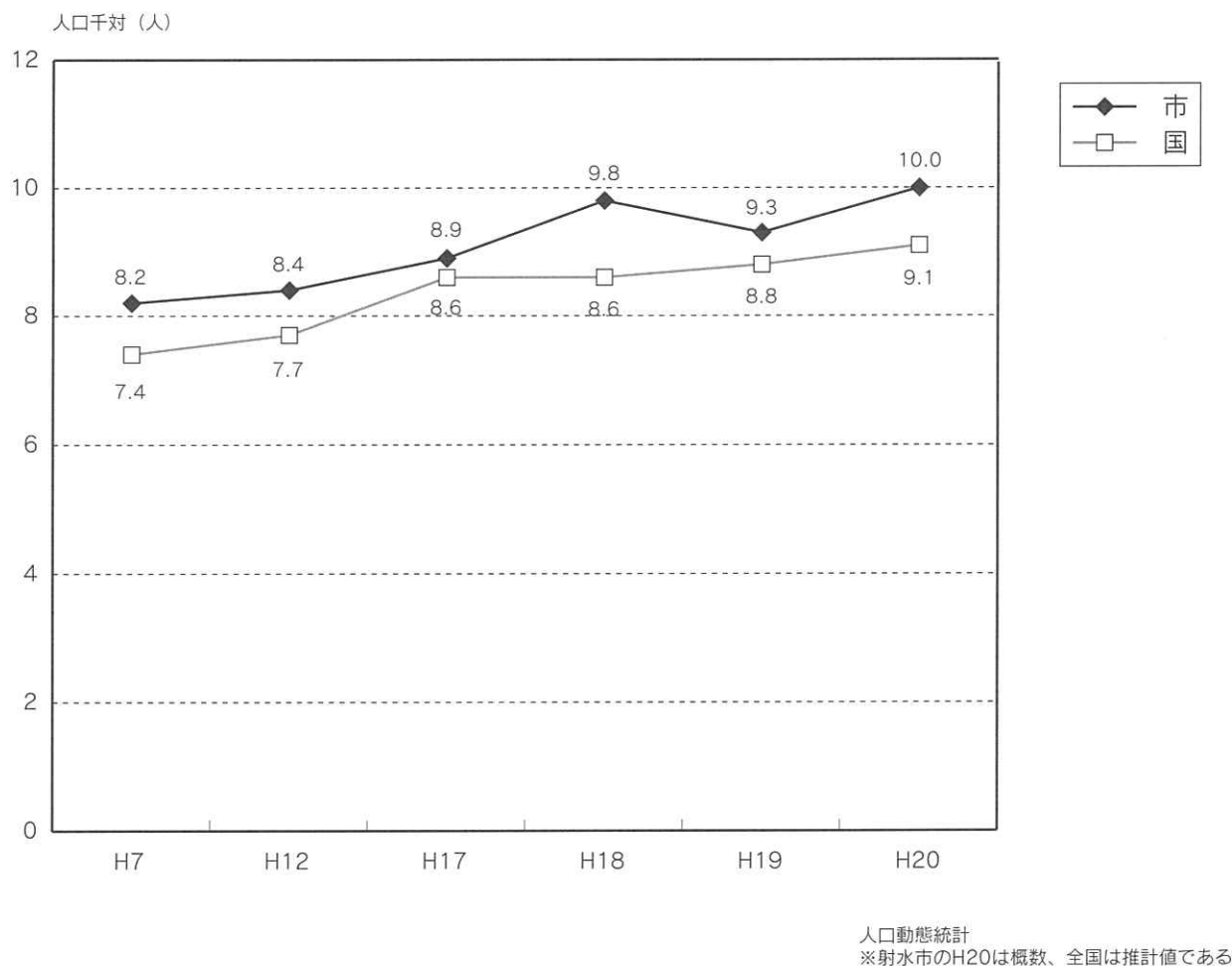
平成19年の市の年少人口（15歳未満の人口）は14.5%であり、国の13.5%に比べて高い値を示しています。年次推移は国と同様で減少傾向にあります。

平成19年の市の生産年齢人口（15～49歳の人口）は63.2%であり、国の65.0%に比べて低い値を示しています。年次推移は国と同様で減少傾向にあります。

平成19年の市の老年人口（65歳以上の人口）は22.3%であり、国の21.5%に比べて高い値を示しています。年次推移は国と同様で増加傾向にあります。

2 人口動態

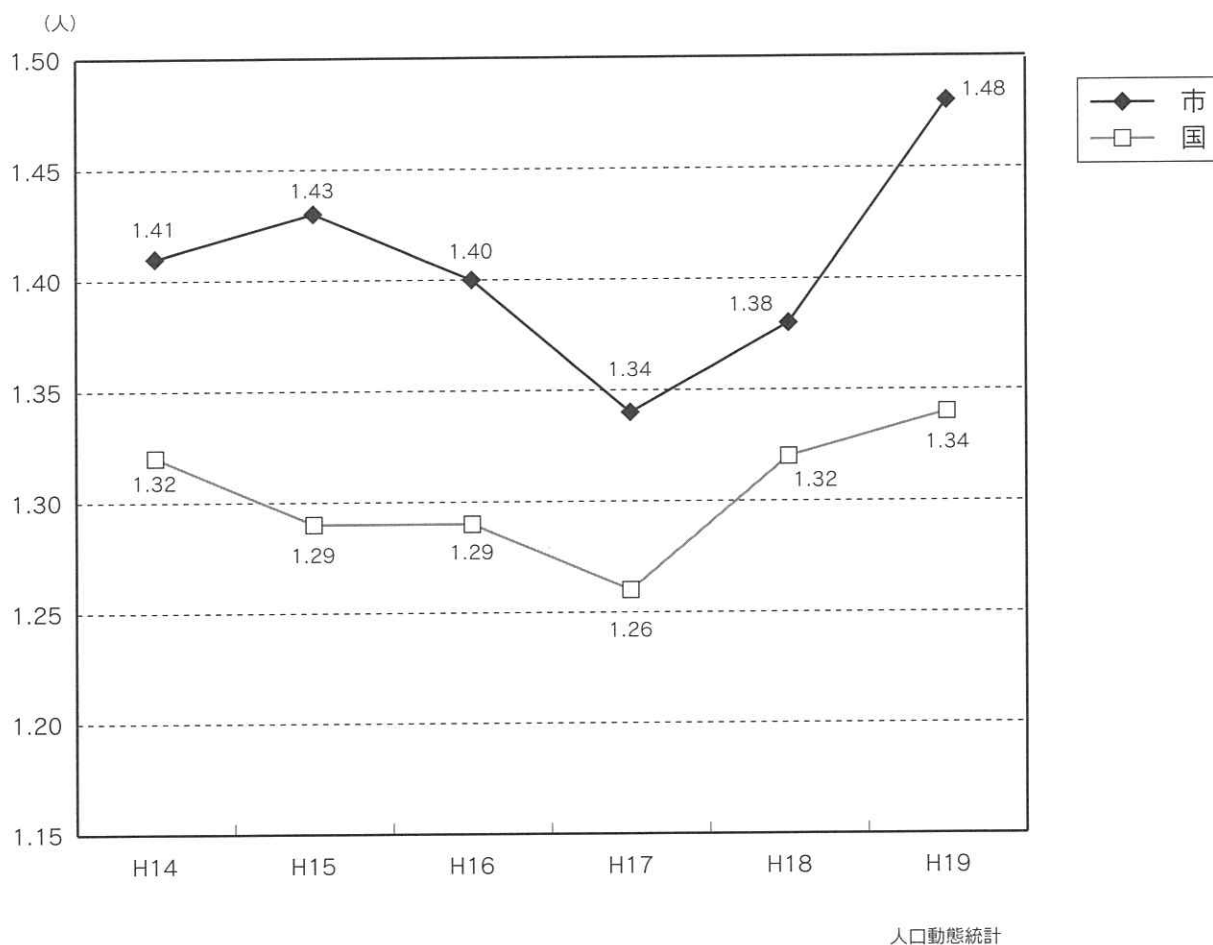
(1) 総死亡率



$$\text{総死亡率} = (\text{総死亡数} / \text{人口}) \times 1,000$$

平成20年の市の総死亡率は人口千対10.0であり、国の9.1に比べて高い値を示しています。平成7年以降いずれの年次においても国に比べて高い値を示し、その年次推移は国と同様に漸増傾向にあります。

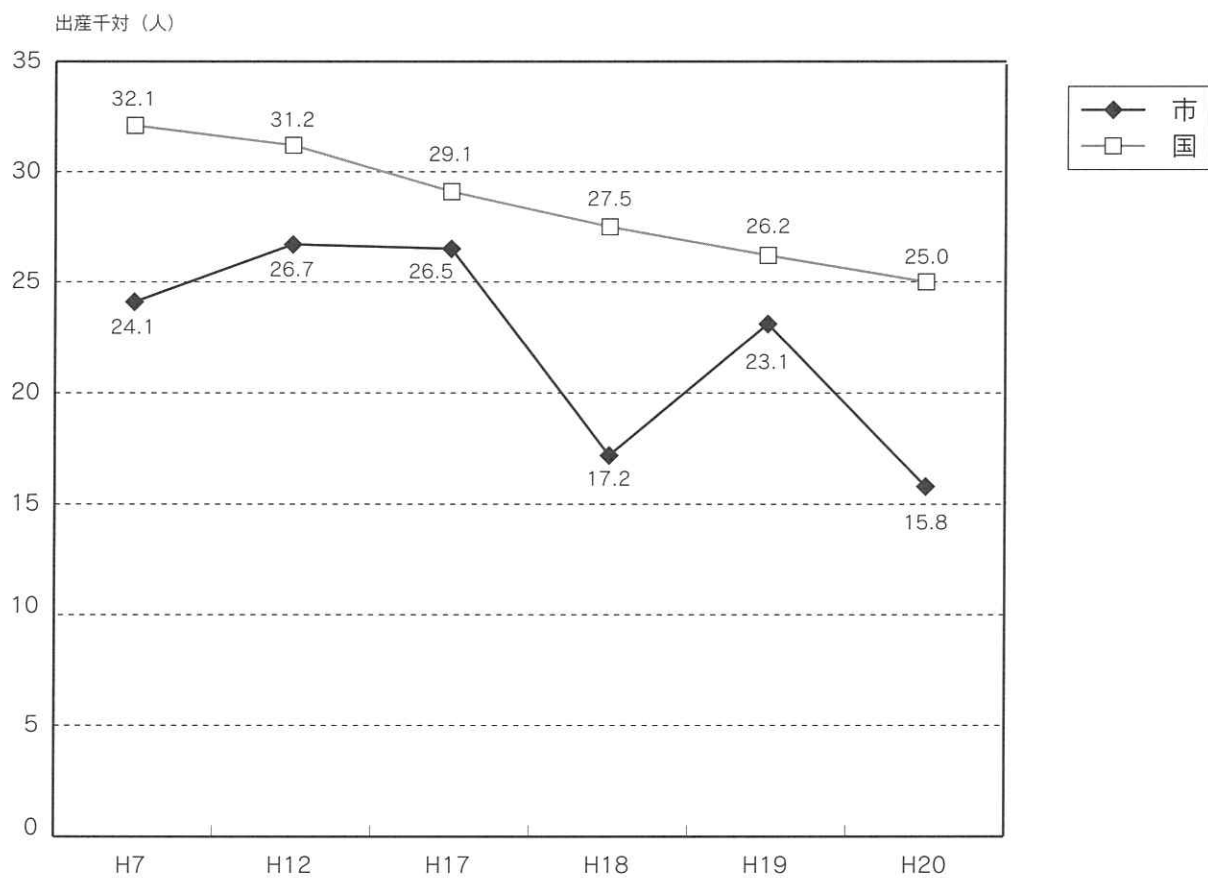
(2) 合計特殊出生率



合計特殊出生率＝15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を全て足し合わせた数字で、1人の女性が一生の間に出産する子供の平均数を表しています。

平成19年における市の合計特殊出生率は1.48であり、国の1.34に比べて高い値を示しています。平成14年以降いずれの年次においても国に比べて高い値を示し、その年次推移は平成17年以降国と同様に増加傾向にあります。

(3) 死産率

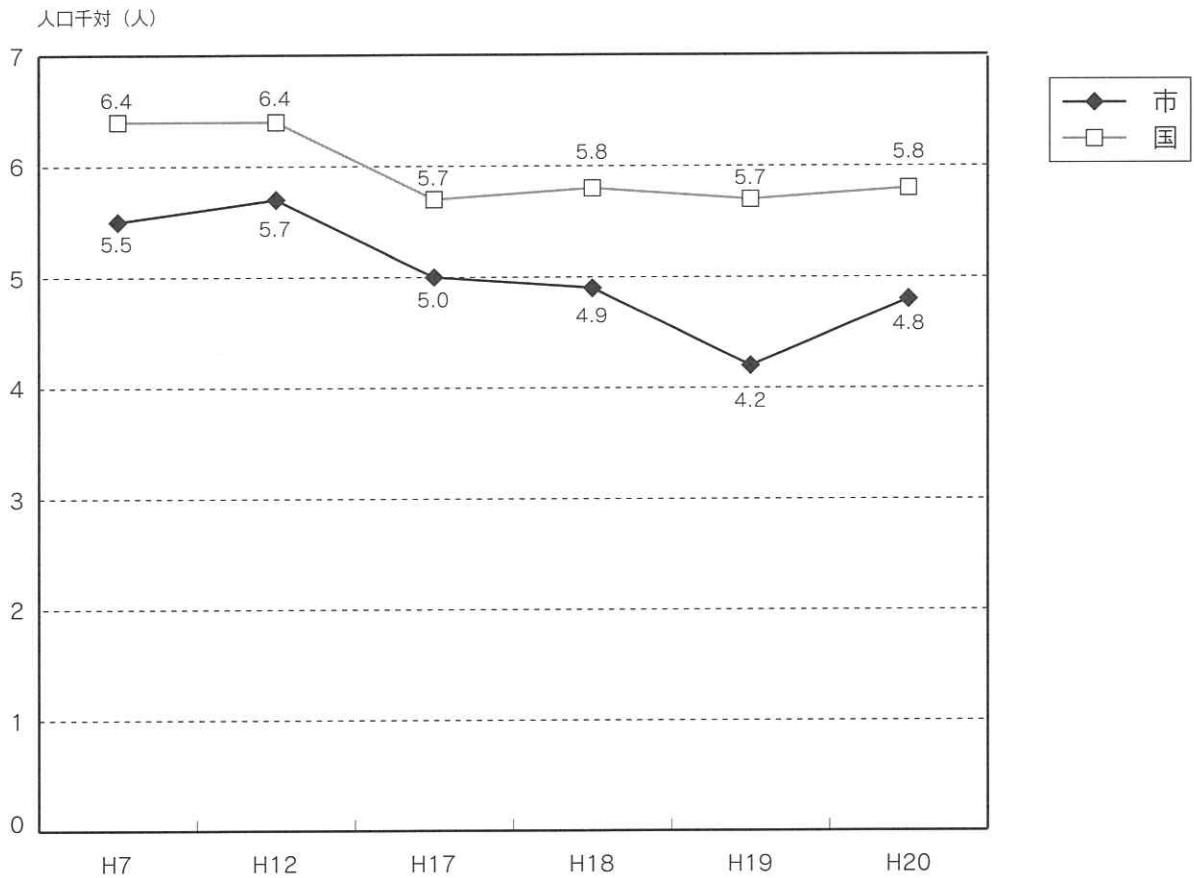


人口動態統計
※射水市のH20は概数、全国は推計値である

$$\text{死産率} = (\text{死産数} / \text{出生数} + \text{死産数}) \times 1,000$$

平成20年における市の死産率は出生千対15.8であり、国の25.0に比べて低い値を示しています。平成7年以降いずれの年次においても国に比べて低い値を示し、その年次推移は国と同様に減少傾向にあります。

(4) 婚姻率

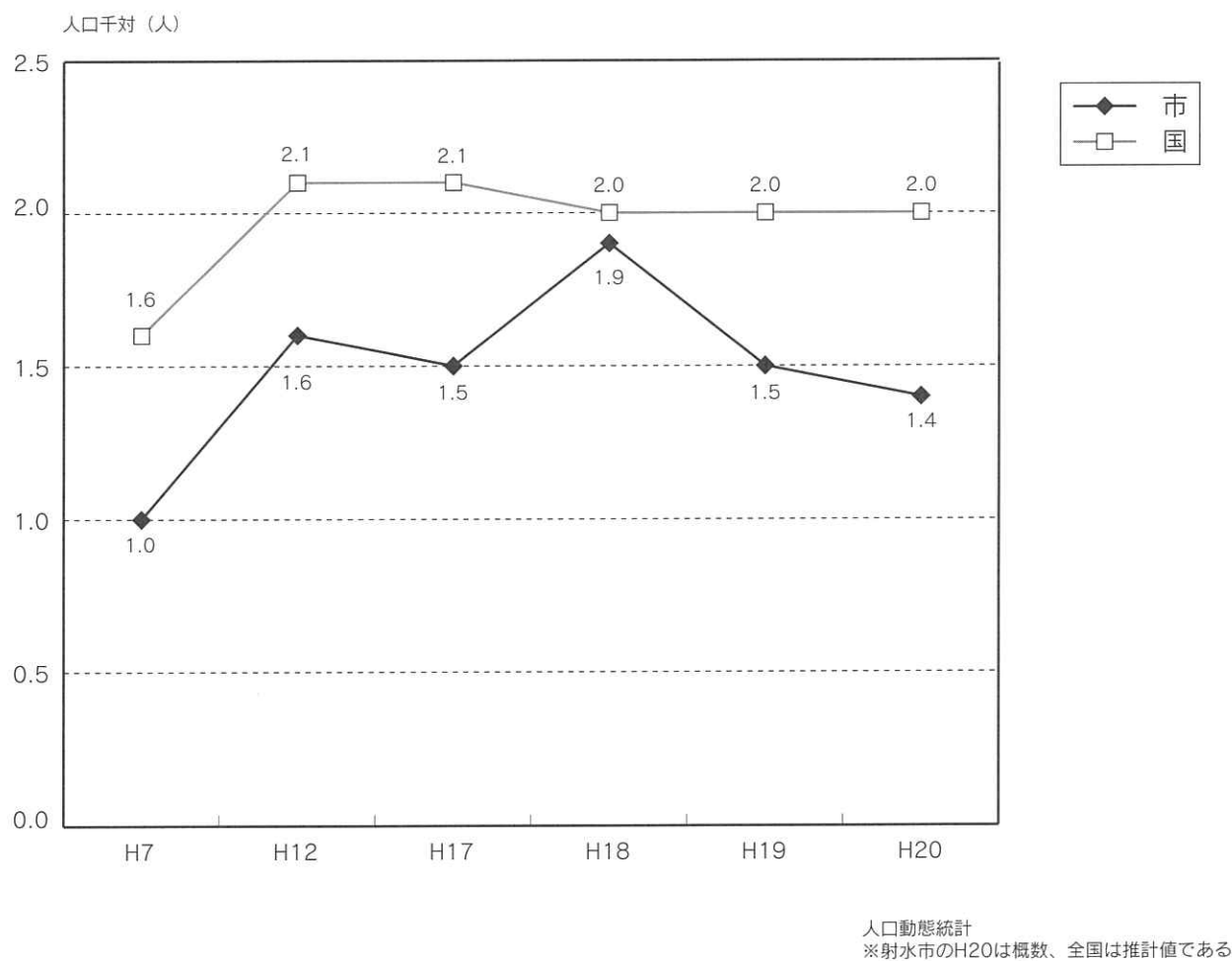


人口動態統計
※射水市のH20は概数、全国は推計値である

$$\text{婚姻率} = (\text{婚姻数} / \text{人口}) \times 1,000$$

平成20年における市の婚姻率は人口千対4.8であり、国の5.8に比べて低い値を示しています。平成7年以降、いずれの年次においても国に比べて低い値を示し、その年次推移は国と同様に漸減傾向にあります。

(5) 離婚率

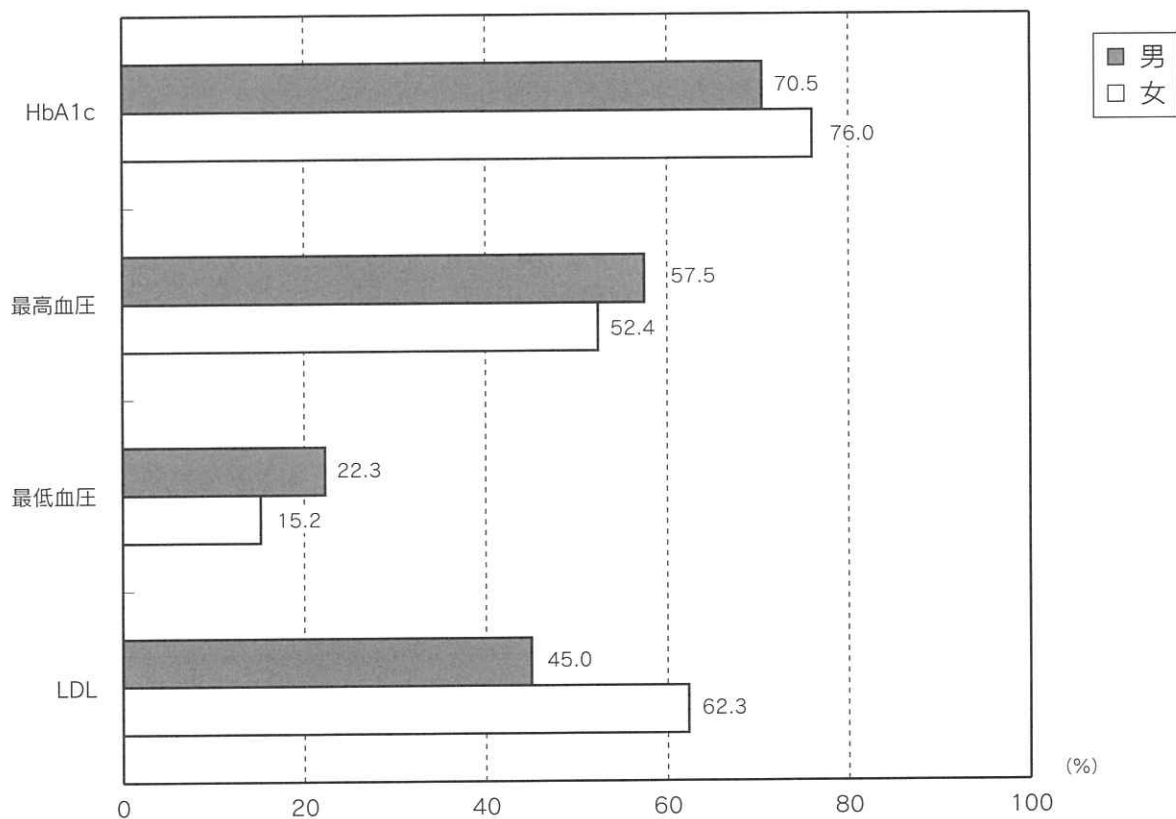


$$\text{離婚率} = (\text{離婚数} / \text{人口}) \times 1,000$$

平成20年における市の離婚率は人口千対1.4であり、国の2.0に比べて低い数値を示しています。平成7年以降いずれの年次においても国に比べて低い値を示し、その年次推移は国と同様に横ばい状態にあります。

3 疾病の状況

(1) 射水市国民健康保険加入者の特定健康診査受診者における有所見者割合



市民保険課資料（H20年12月現在）

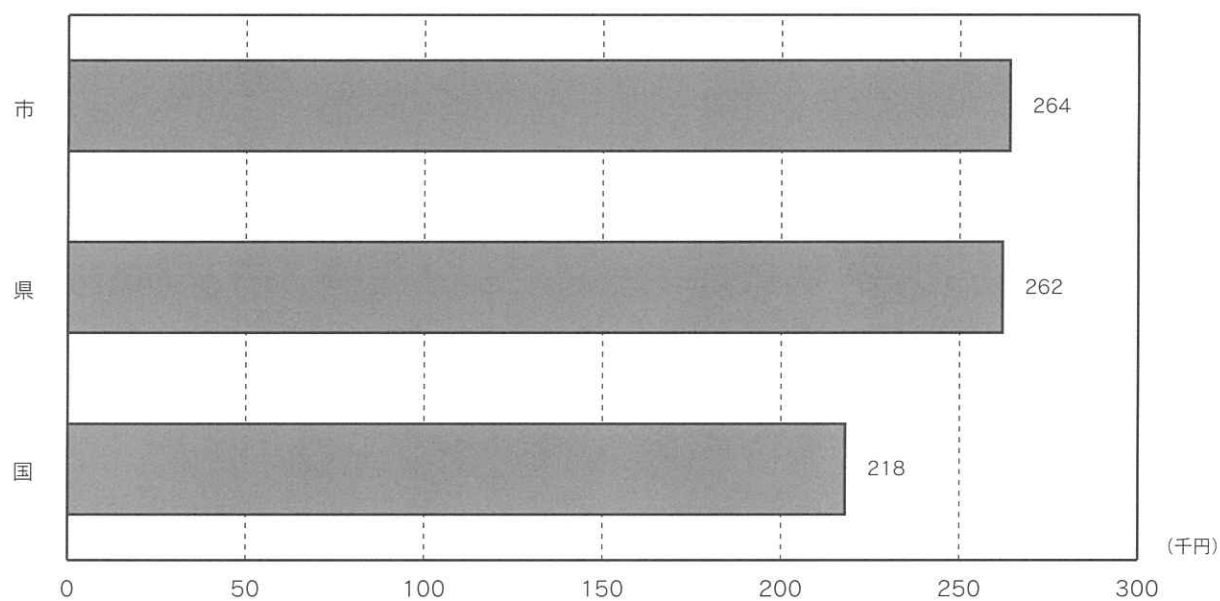
平成20年度の市の国民健康保険加入者の40歳から74歳を対象とした特定健康診査の受診者について、健康診査有所見基準に従い、検査項目別に有所見者割合を示しました。

HbA1c（血糖のコントロール状態を示す検査値）において、受診者の約7割（男性70.5%女性76.0%）の者が所見ありと判定されました。各項目について男女比較をすると、HbA1c（血糖のコントロール状態を示す検査値）とLDL（悪玉コレステロール）については女性、血圧値については、男性の有所見者割合が高くなっていました。

※健康診査有所見者基準

健診項目	項 目 の 説 明	有所見と判断される基準値
HbA1c	体内に酸素を運ぶ役割を担っている赤血球中のヘモグロビンと血糖中のブドウ糖が結合したものをいい、血糖値が高いほどたくさんつくられる。	5.2%以上
最高血圧	心臓が持つポンプ作用によって血液が全身に送り出されるときの圧力を血圧といいます。	130mmHg以上
最低血圧	心臓が収縮したとき最高血圧（収縮期血圧）、心臓が拡張したとき最低血圧（拡張期血圧）となります。	85mmHg以上
LDL	コレステロールを肝臓から各臓器に運ぶ働きをしている低比重リポタンパクのことでLDLコレステロールは動脈硬化や虚血性心疾患、脳血管障害などを引き起こす危険因子とされ、「悪玉コレステロール」と呼ばれています。	120mg/dl以上

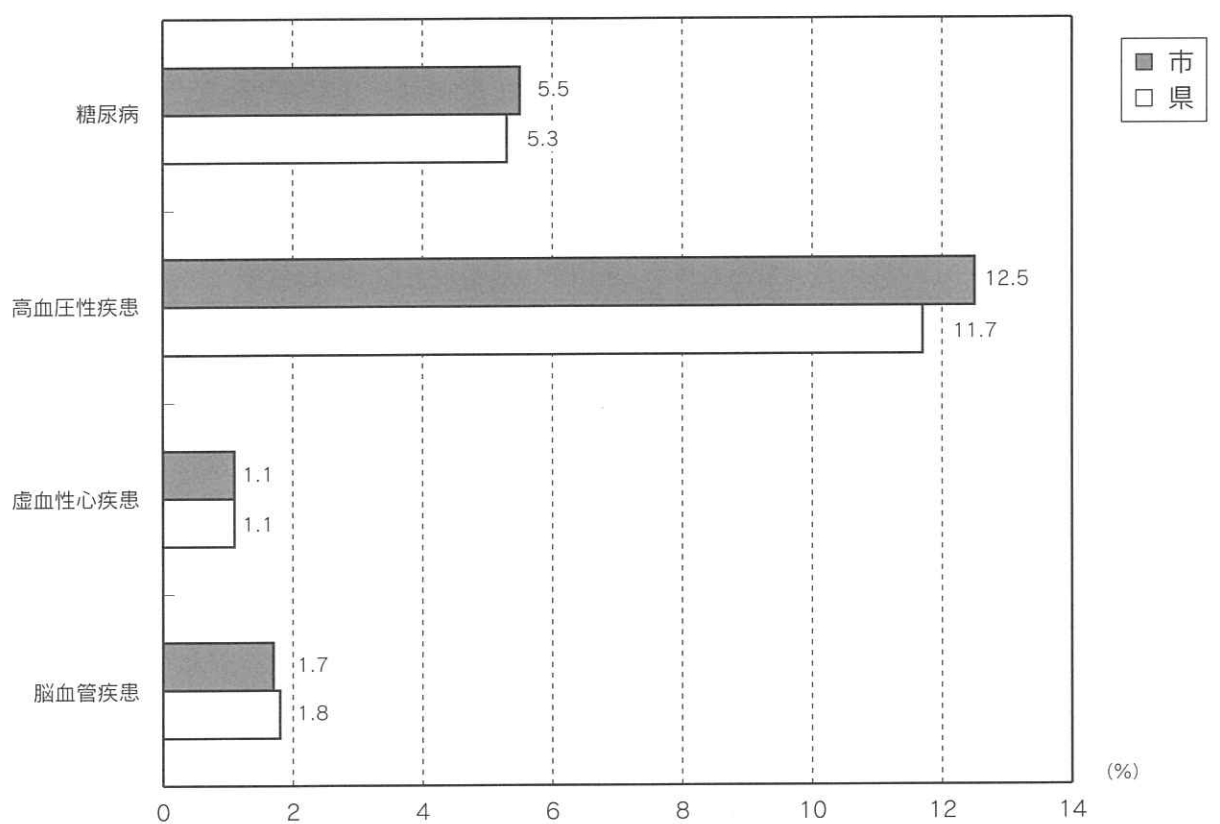
（２）射水市国民健康保険加入者の一人あたり医療費



H19国民健康保険事業報告

平成19年度の市の国民健康保険加入者の一人あたりの一年間の医療費は、26万4千円となっており、国と比べて高くなっています。

(3) 射水市国民健康保険加入者の疾病別にみた受療者割合



目でみる国保（H20年5月診療分）

平成20年5月分の国民健康保険加入者の受療状況をみると、高血圧性疾患で治療を受けた人が最も多く、次いで糖尿病、脳血管疾患の順となっています。

4 寿命について

(1) 平均寿命と健康寿命（平成17年）

(歳)

区 分	男		女	
	市	国	市	国
平均寿命	78.4	78.5	84.8	85.5
健康寿命※	76.2	75.9	79.9	79.3
非自立期間	2.2	2.6	4.9	6.2

平均寿命：0歳の者があと何年生きられるかを表した指標

健康寿命：0歳の者があと何年「自立」した状態で生きられるかを表した指標

※健康寿命は、①年齢階級別人口（厚生労働省人口動態統計）②年齢階級別死亡数（厚生労働省人口動態統計）③年齢階級別要支援要介護認定者数（国は厚生労働省介護給付費実態調査、市は長寿介護課資料）をもとに、切明義孝氏の介護保険制度を利用した健康寿命計算マニュアル式を基に年齢を算出した。

非自立期間：介護保険法に基づく「要支援以上」になった時点を「非自立」と定義して計算した期間

平成17年の市男性の平均寿命は78.4歳で、そのうち自立した状態でいられる健康寿命は76.2年となっており、国と比べるとやや長い値を示しています。介護を必要とする非自立期間は2.2年でした。

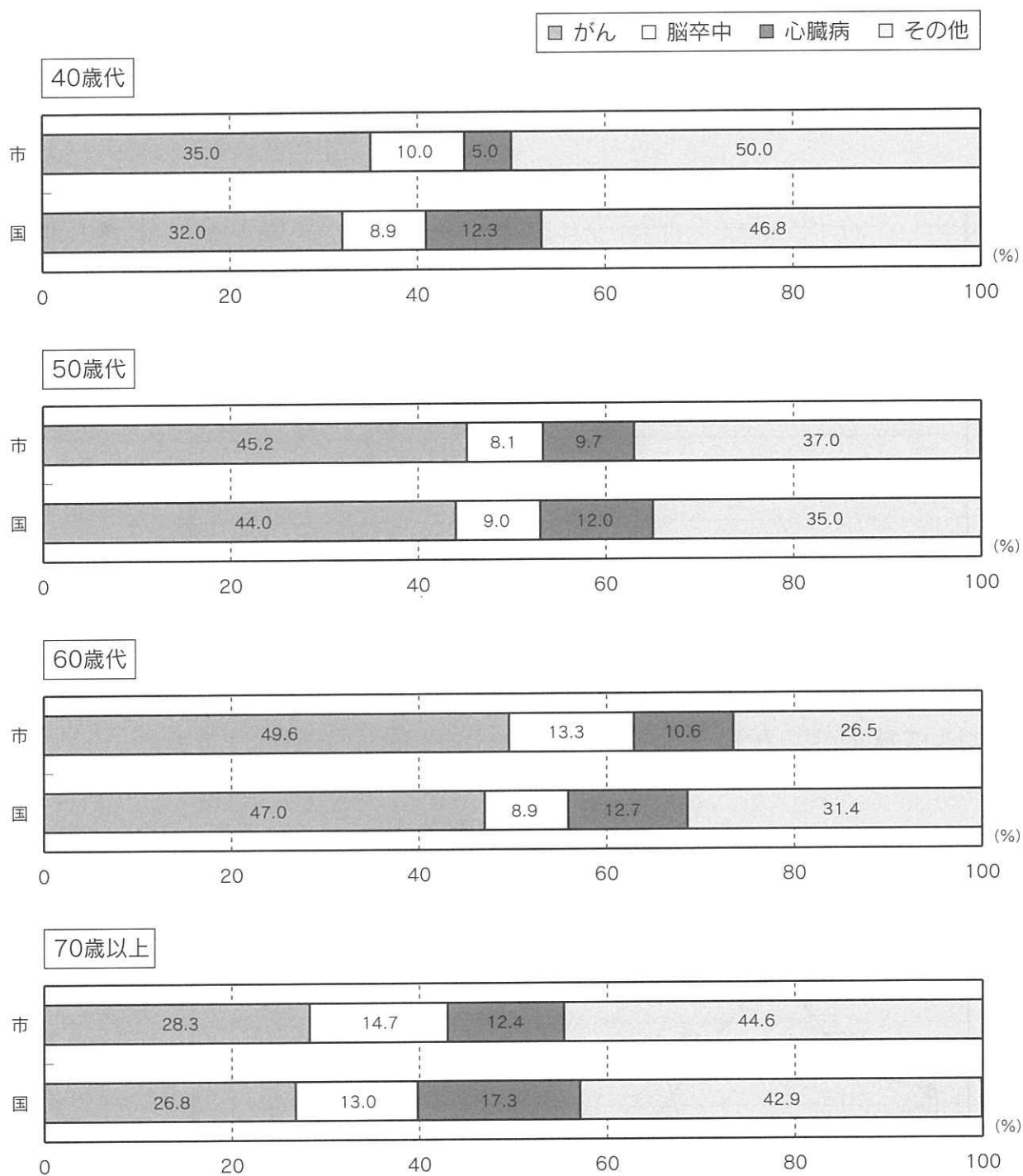
平成17年の市女性の平均寿命は84.8歳で、そのうち自立した状態でいられる健康寿命は79.9年となっており、国と比べるとやや長い値を示しています。介護を必要とする非自立期間は4.9年でした。

(2) 健康寿命の損失に関わる要因

健康寿命が短くなるのは、早世（早くに世を去ること）と寝たきり者が増えるためです。健康寿命を延伸するためには、死亡や要介護に関わる要因についての分析が重要となります。

① 死亡状況の分析

ア 年代別主要死因構成割合（平成18年）

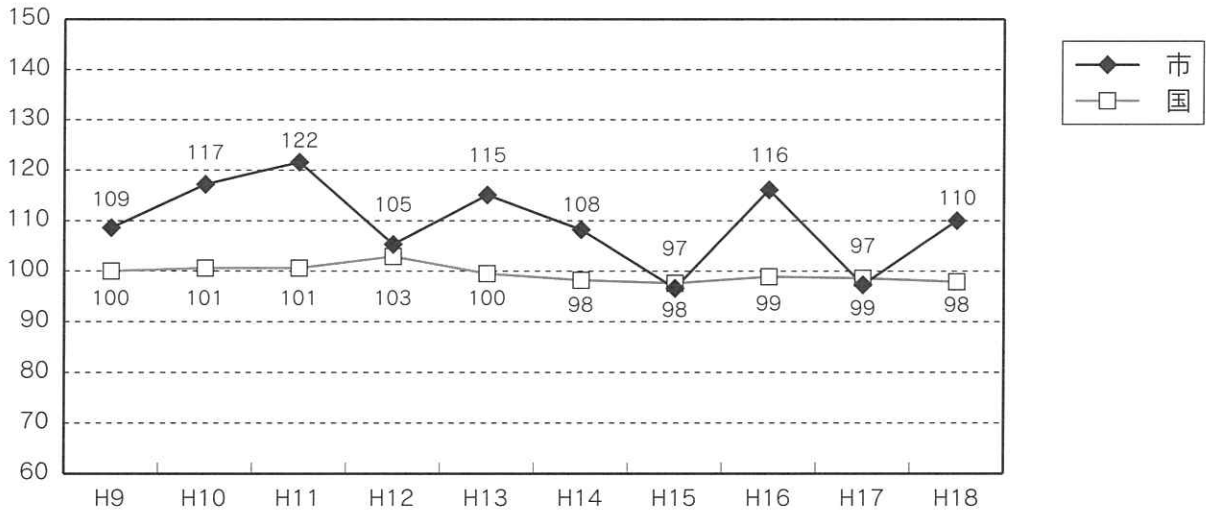


どの年代においても、国と同様にがんが死因の第一位となっています。特に市の40歳代のがん死亡割合は国に比べて高い値を示しています。

イ 死因別標準化死亡比（SMR）

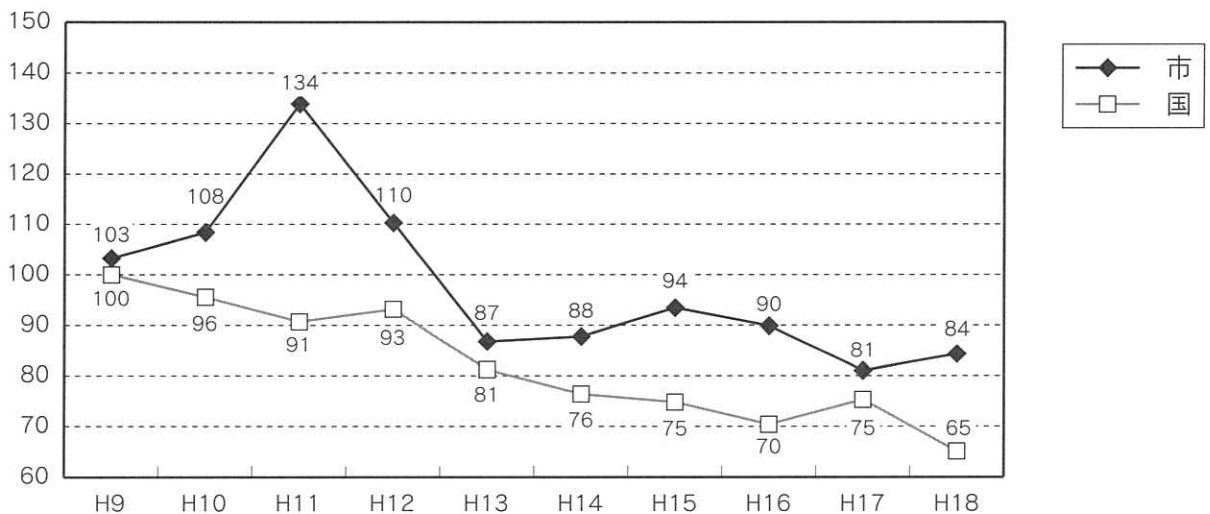
SMR（標準化死亡比）：人口における年齢構成の違いの影響を除いて求められた死亡率のこと。平成9年の全国を100として示しました。

悪性新生物



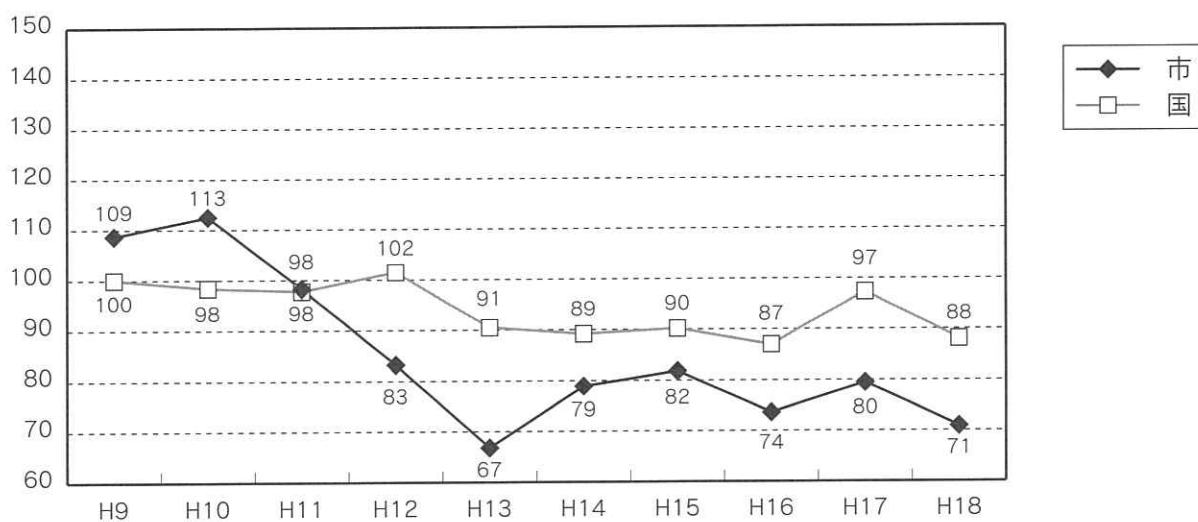
悪性新生物については、どの年においても国より高いSMR値を示しています。最近10年間に於いて減少が見られず、国の年次推移と同様に市も横ばいの傾向にあります。

脳血管疾患



脳血管疾患については、どの年においても国より高いSMR値を示しています。最近10年間に於いては、市も国と同様に減少傾向にあります。

心疾患

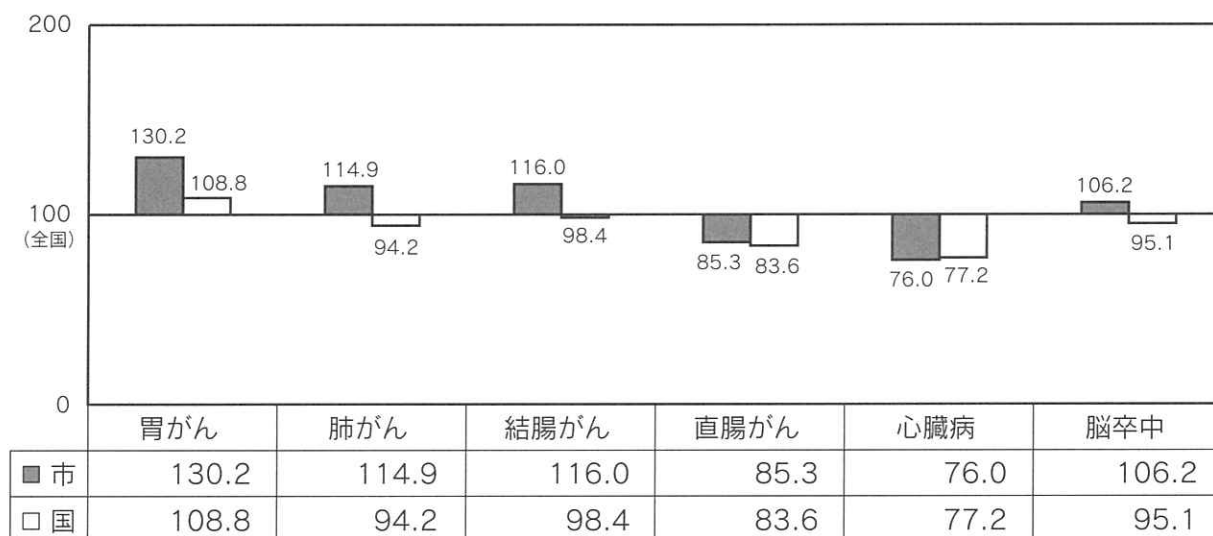


心疾患については、市は平成11年以降、国より低いSMR値を保っています。市も国と同様に減少傾向にあります。

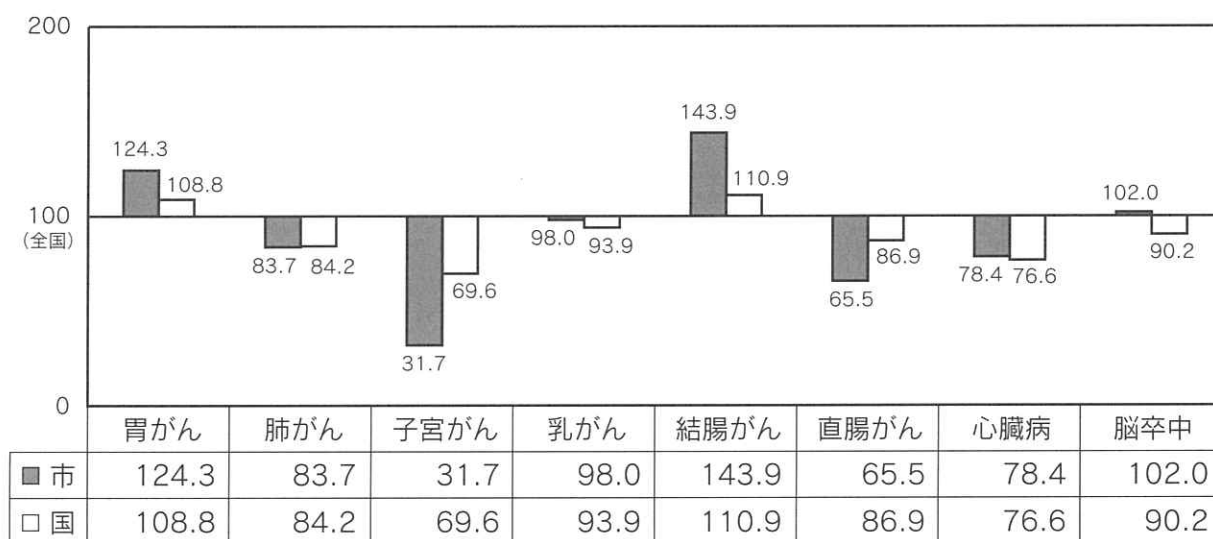
ウ 男女別の死亡分析 (標準化死亡比 (SMR))

平成14年から18年までの5年間の死亡数と平成18年の性別5階級別死亡率を用い、人口は平成12年国勢調査人口を用いた。(全国を100とする)

《男性》



《女性》

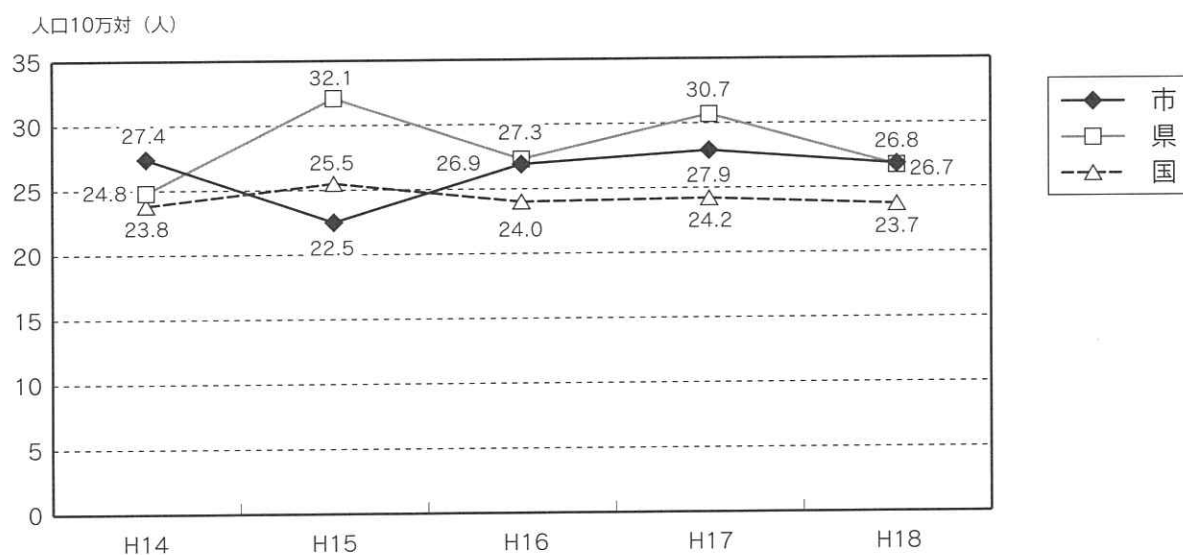


富山県保健統計年報

男女別による死亡状況をみると、男性の胃がん、肺がん、結腸がん、女性の胃がん、結腸がんによる死亡が国に比べて高くなっています。

(自殺による死亡数、死亡率)

区 分	死 亡 数					死亡率 (人口10万対)		
	市	男	女	県	国	市	県	国
H14	26	16	10	276	29,949	27.4	24.8	23.8
H15	21	16	5	356	32,107	22.5	32.1	25.5
H16	25	17	8	302	30,247	26.9	27.3	24.0
H17	26	19	7	338	30,553	27.9	30.7	24.2
H18	25	15	10	293	29,921	26.8	26.7	23.7

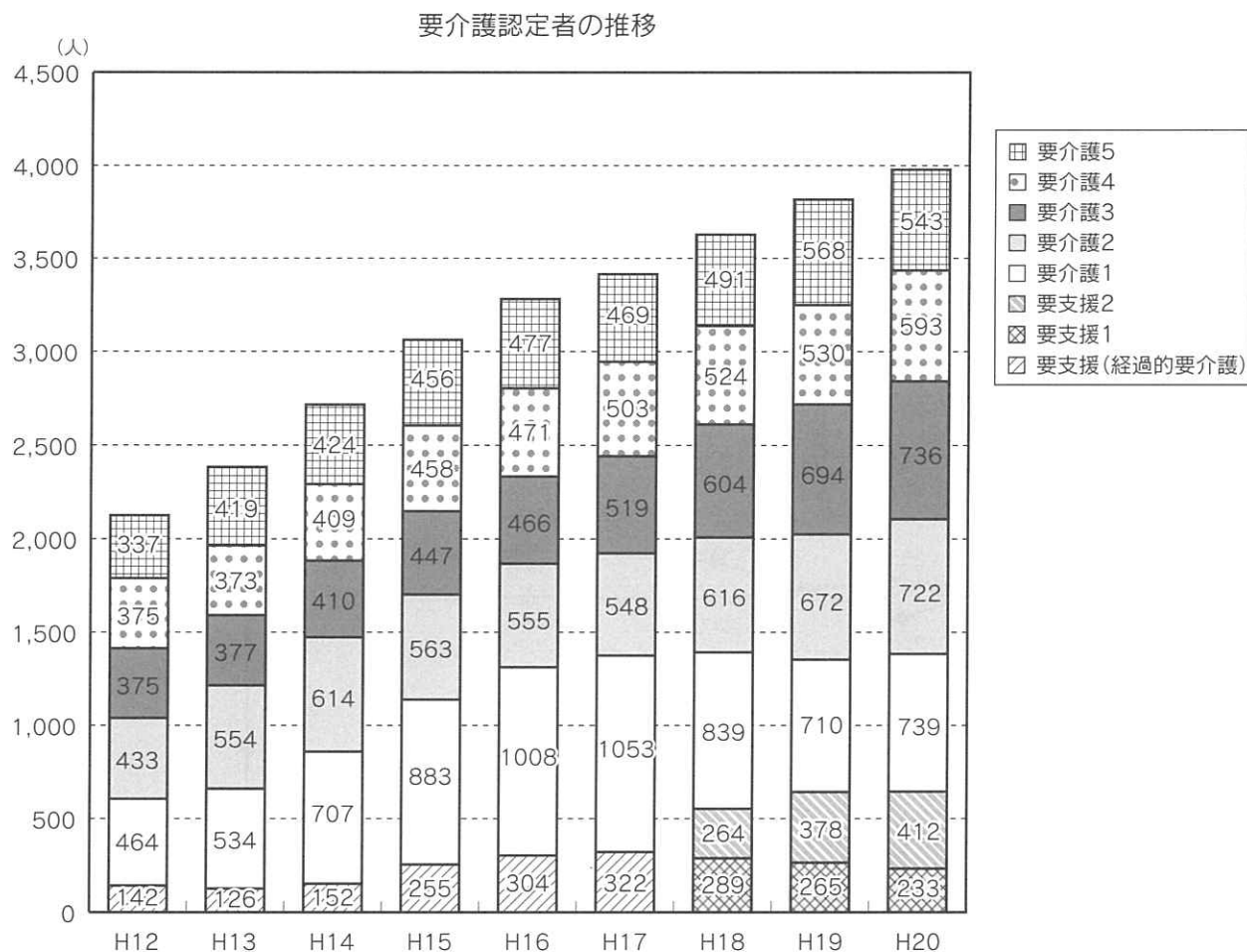


富山県保健統計年報

自殺については、平成10年以降全国的に自殺者が増加して以来、減少がみられず大きな社会問題となっています。市の平成18年の自殺死亡数は人口10万対26.8で、国の23.7、県26.7より高くなっています。また、自殺による死亡は男性が多い状況となっています。

② 射水市介護保険利用状況の分析

ア 要介護認定者の推移

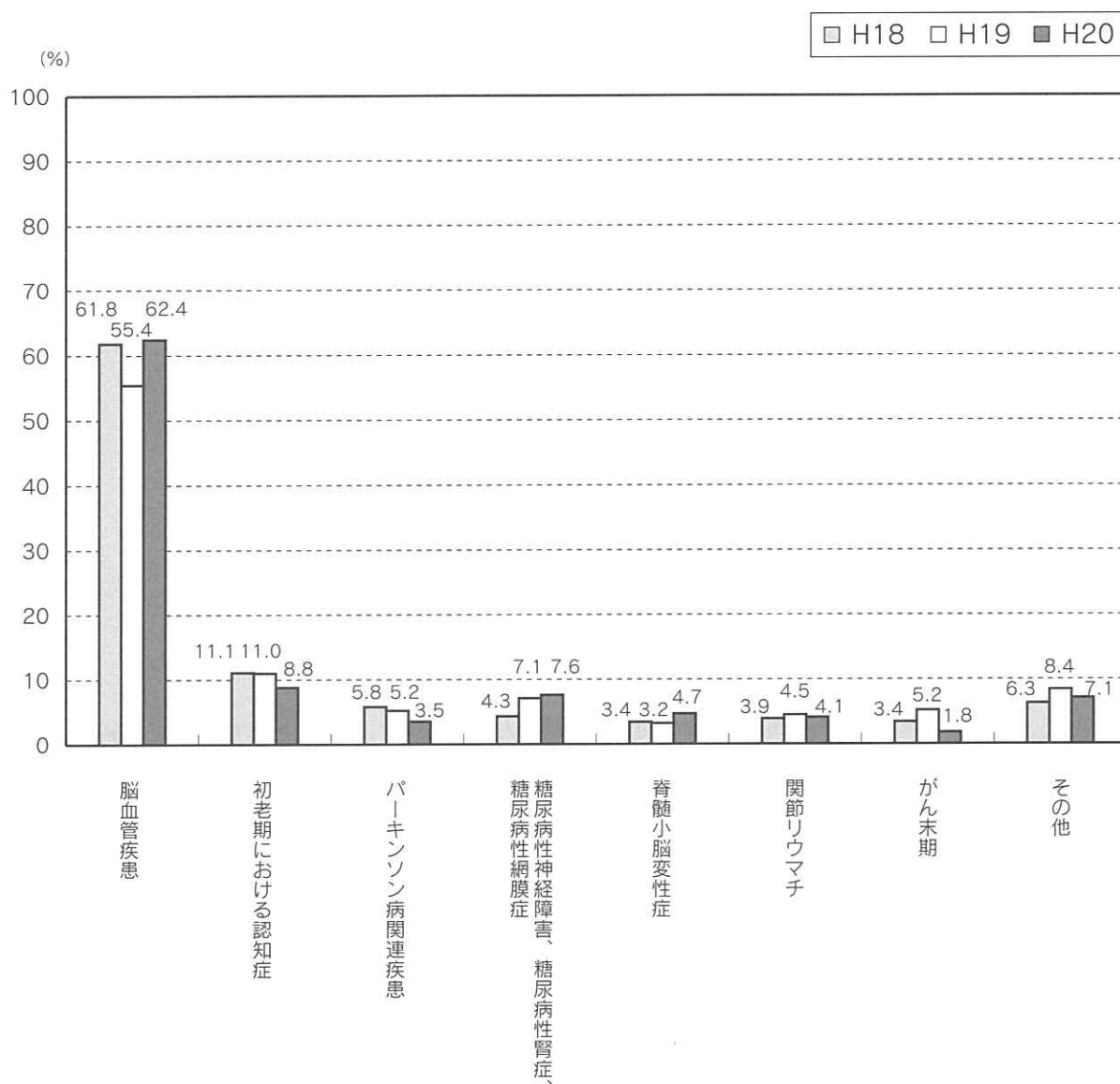


市介護保険事業状況報告

平成18年以降は介護保険認定は「要支援1～2」「要介護1～5」の7段階に区分されています。

平成20年の市の要介護認定者は3,978人（65歳以上の認定率は18.4%）です。要介護認定者数は年々増加傾向にあり、平成12年の介護保険制度スタート時に比べて2倍近くなっています。今後、団塊の世代が高齢期に入る平成24年以降、高齢化はさらに加速することが予測され、要介護認定者も増加するものと思われます。

イ 介護保険2号被保険者における特定疾病の状況



市介護保険事業状況報告（各年3月末）

市の介護保険2号被保険者（40歳から65歳未満の医療保険加入者）における要介護原因は、脳血管疾患が約6割を占めています。

以上、死亡や介護要因の分析から、射水市の健康寿命の延伸にはがん、脳血管疾患等を予防する生活習慣病対策ならびに自殺予防・認知症予防が不可欠と言えます。

5 射水市民の健康に関する意識と行動

健康づくりに関する市民意識調査

市民が主体的に健康づくりに取り組むために市民の意見を反映させることが必要です。この「プラン」を策定するために、「健康に関する住民アンケート」を実施しました。

① 調査目的

射水市健康増進プランを策定するにあたり、健康に関する市民の意識及びニーズ等を把握する。

② 調査対象

20歳～80歳未満の市民の中から、層化無作為抽出した約1,000人

③ 調査期間

平成21年1月29日～2月20日

④ 調査方法

郵送返送方式

⑤ 有効回答

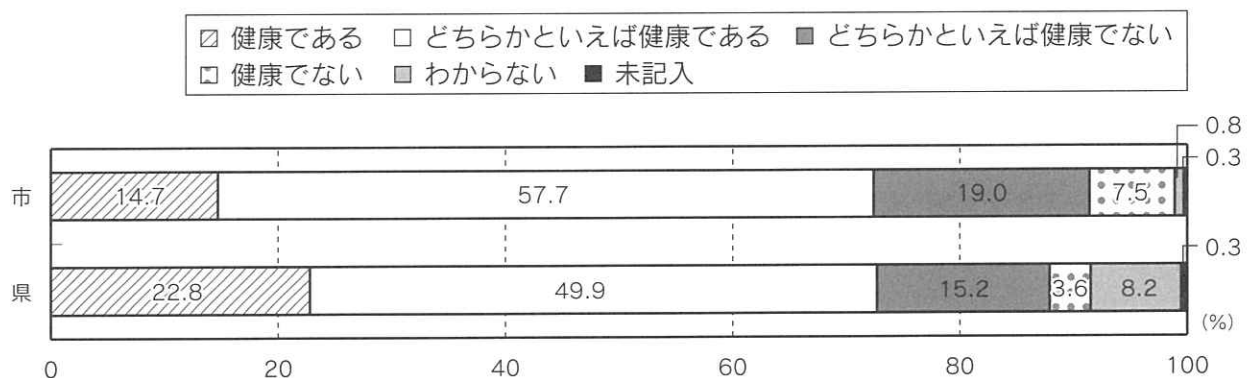
604人（男 252人 女 341人 不明 11人）

市民の健康状態や生活習慣、健康に関する知識など7項目「栄養と食生活」「身体活動と運動」「休養とこころの健康づくり」「たばこ」「アルコール」「歯の健康」「メタボリックシンドローム」について把握、分析しました。

(1) 健康意識

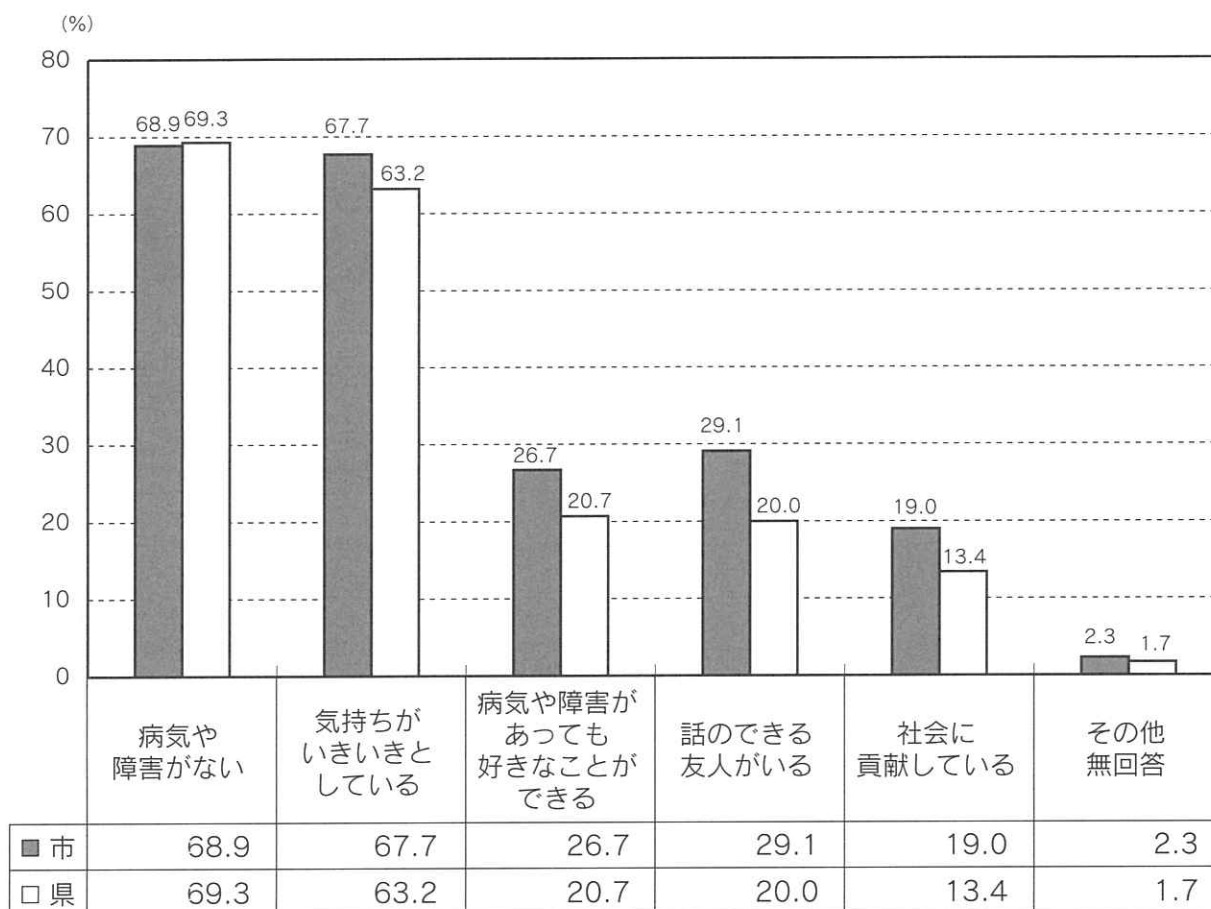
① 主観的健康観

Q1 あなたの健康状態をどのように感じていますか



約7割の市民が健康である（健康である＋どちらかといえば健康である）と回答していました。

Q2 あなたは「健康」ということはどんなことだと思いますか



県が行った同様の調査と比較すると、射水市民では「気持ちがいきいきしている」「病気や障害があっても好きなことができる」「話のできる友人がいる」「社会に貢献している」と回答した者が多く、市民の健康観は「QOL（生活の質）の向上」にあることが分かります。

(2) 生活習慣

調査項目については、「栄養と食生活」「身体活動と運動」「休養とこころの健康づくり」「たばこ」「アルコール」「歯の健康」「メタボリックシンドローム」などとして、市民の健康状態や生活習慣、健康に関する意識などを把握しました。

① 栄養と食生活

項 目	市 現 状
■適正体重を維持している人	
20歳代女性のやせの人	25.0%
20～60歳代男性の肥満者	31.2%
40～60歳代女性の肥満者	11.2%
■朝食を欠食する人	
20歳代男性	33.3%
30歳代男性	28.6%
■外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする人	44.1%
20～69歳男性	27.5%
20～69歳女性	53.5%
■メタボリックシンドロームを認知している人	70.9%
■自分の食生活に問題があると思う人のうち食生活の改善意欲のある人	
男性	69.6%
女性	70.3%

② 身体活動と運動

項 目	市 現 状
■運動習慣者	
1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上持続する人	
男性	23.8%
女性	22.6%
■意識的に運動を心がけている人	
男性	60.3%
女性	51.6%

③ 休養とこころの健康づくり

項 目	市 現 状
■最近1ヶ月でストレスを感じた人	76.6%
■自殺者率（H18人口10万対）	26.8%

④ たばこ

項 目	市 現 状
■喫煙が健康に及ぼす影響についての十分な知識の普及 （知っている人の割合）	
肺がん	76.2%
喘息	51.0%
気管支炎	57.9%
心臓病	44.5%
脳卒中	46.7%
胃潰瘍	29.0%
妊娠に関連した異常	65.9%
歯周病	32.3%
■喫煙者の割合	
男性	33.3%
女性	6.5%
■喫煙者のうち、禁煙・節煙について意識しない人	32.1%

⑤ アルコール

項 目	市 現 状
■お酒を毎日飲む人	15.9%
■多量に飲酒する人 1日平均純アルコールで約60g（日本酒換算で約3合）以上を飲む人	
男性	3.6%
女性	1.2%

⑥ 歯の健康

項 目	市 現 状
■ 3歳6か月児のむし歯有病率	25.1%
■ 60歳（55～64歳）で24本以上の自分の歯を有する人	36.8%
■ 歯周疾患検診で治療が必要な人	56.8%
■ 歯周疾患検診の受診率	10.7%
■ 歯間部清掃用具を使用する人	
40歳（35～44歳）	43.2%
50歳（45～54歳）	36.8%

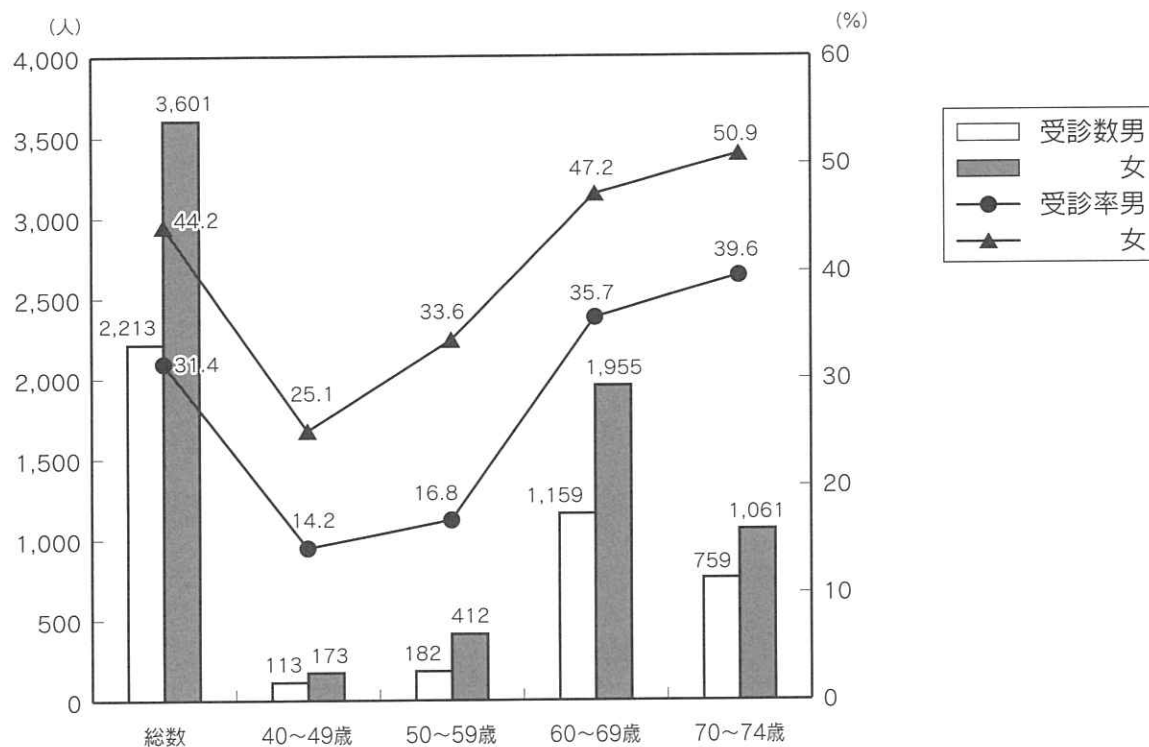
⑦ メタボリックシンドローム

項 目	市 現 状
■ メタボリックシンドロームを認知している人の割合	70.9%

(3) 健康診査受診行動

① 特定健康診査

特定健康診査受診率（平成20年度）

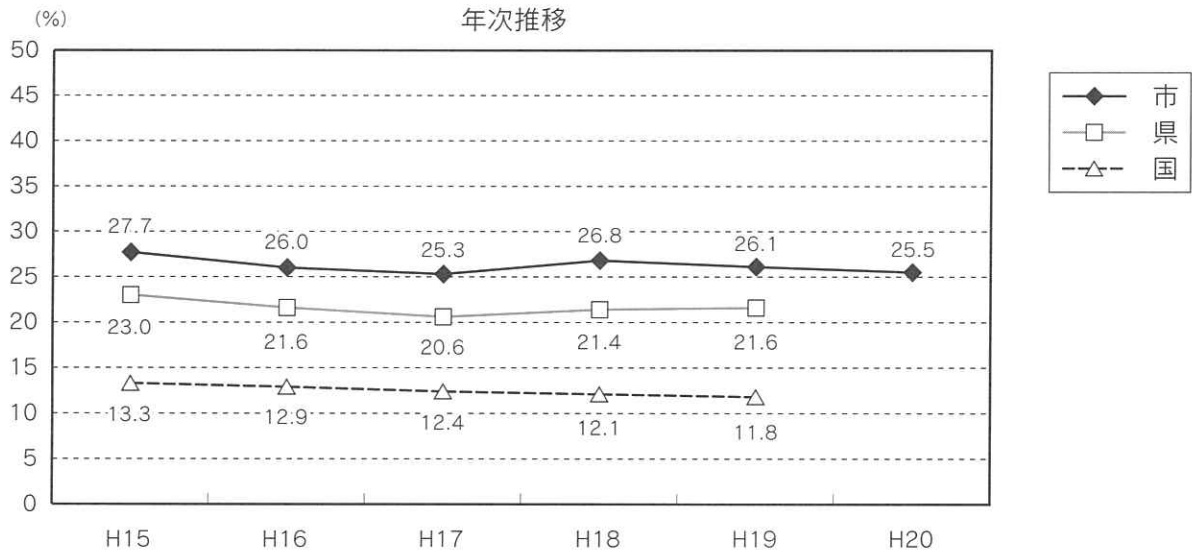


※国民健康保険加入者の数値

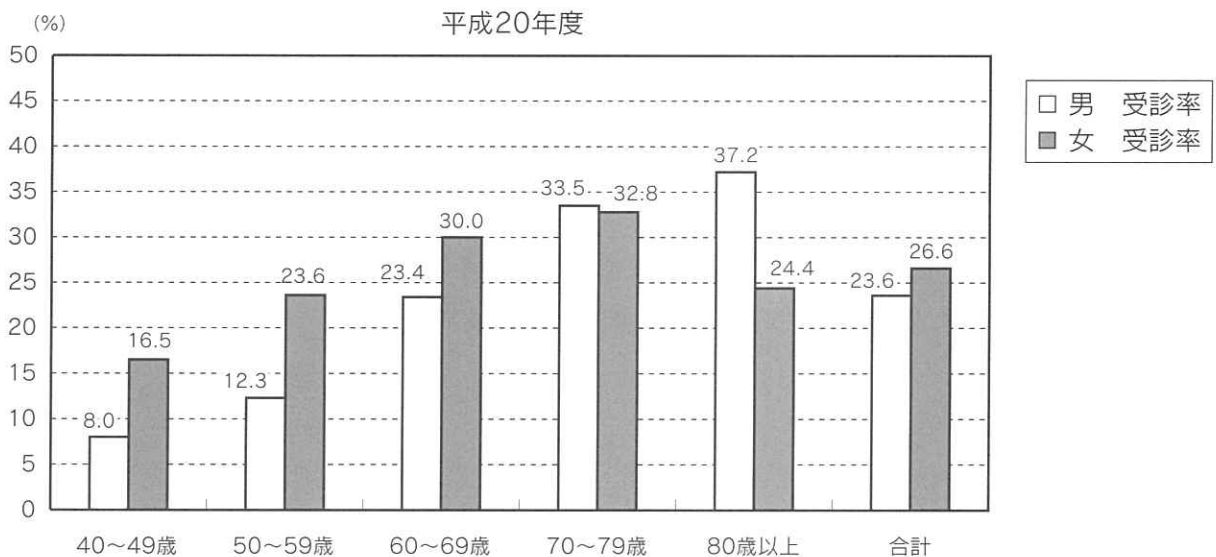
平成20年度から始まった特定健康診査受診率は女性44.2%、男性31.4%でした。どの年代においても、女性に比べて男性の受診率が低い状況にありました。

② がん検診受診率

ア 胃がん

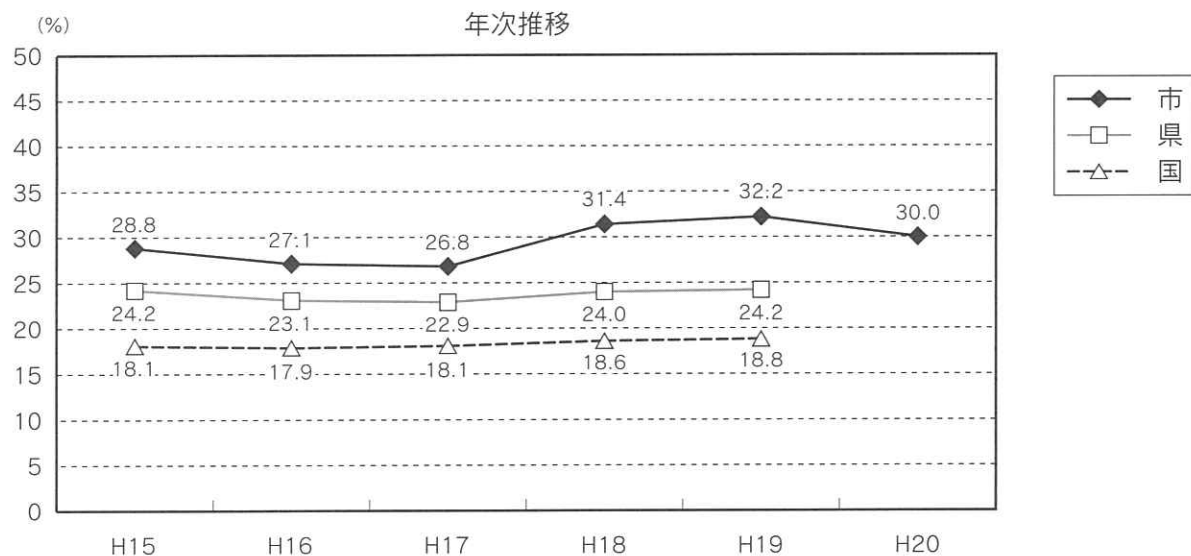


厚生労働省「地域保健・老人保健事業報告」

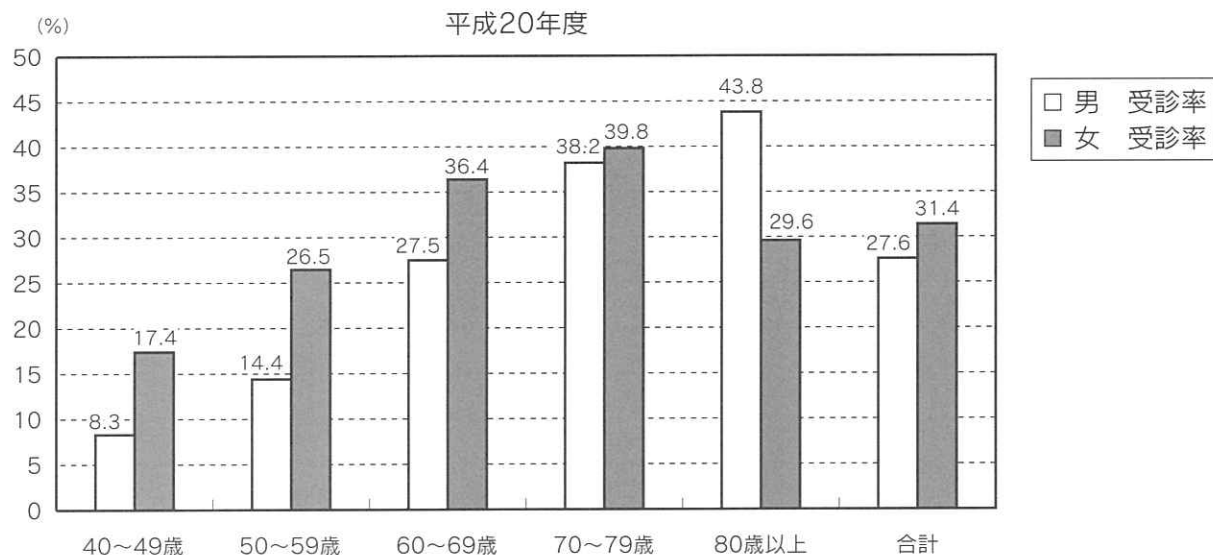


平成19年度の市の胃がん検診受診率は26.1%であり、県21.6%、国11.8%に比べ、高い値を示し、いずれの年も県、国に比べて高い状況にあります。年次推移を見ると、国は漸減傾向にありますが、市は横ばい状態を保っています。平成20年度の受診率は、40歳代の受診率が最も低く、70歳代まで年齢の上昇とともに高くなっています。また40歳から69歳までは男性に比べて女性の受診率が高く、70歳以上では男性の受診率が高くなっています。

イ 大腸がん

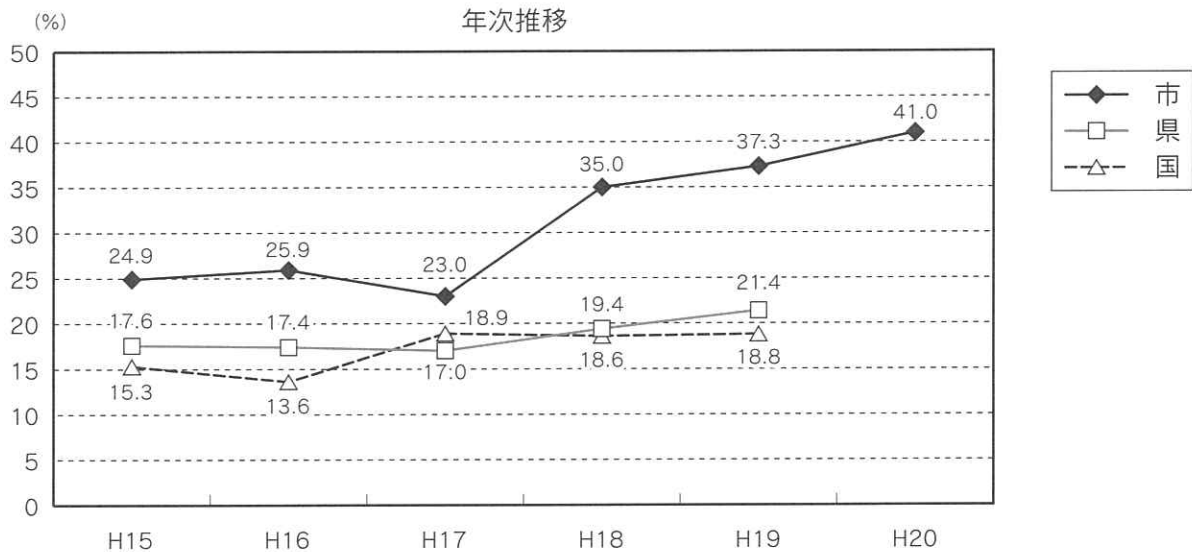


厚生労働省「地域保健・老人保健事業報告」



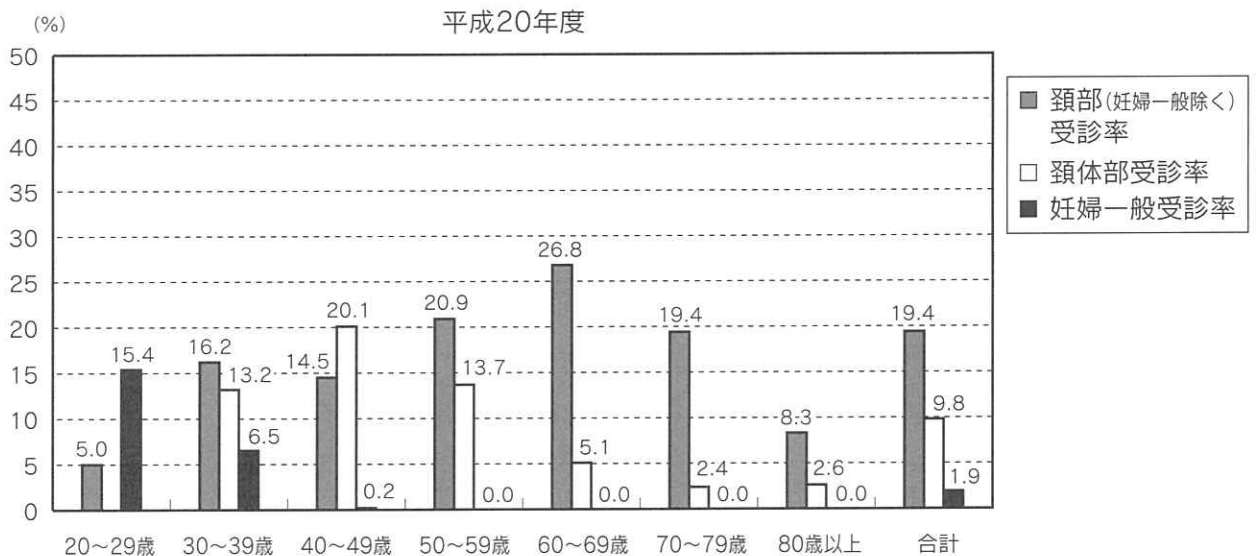
平成19年度の市の大腸がん検診受診率は32.2%であり、県24.2%、国18.8%に比べて高い値を示し、いずれの年も県、国に比べて高い状況にあります。年次推移を見ると、国は漸減傾向にありますが、市は横ばい状態を保っています。平成20年度の受診率は、40歳代が最も低く、70歳代まで年齢の上昇と共に高くなっています。また40歳から69歳までは、男性に比べて女性の受診率が高くなっています。

ウ 子宮がん



厚生労働省「地域保健・老人保健事業報告」

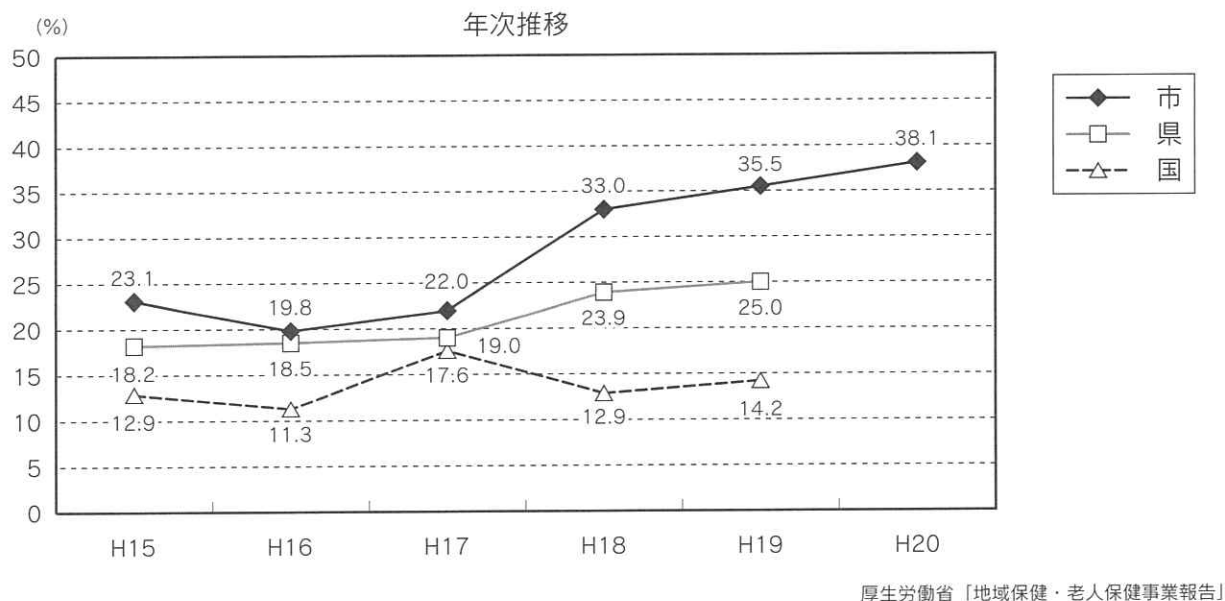
H18年度より受診率算定方法変更

$$\text{受診率} = \frac{(\text{「前年度の受診者数」} + \text{「当該年度の受診者数」} - \text{「前年度及び当該年度における2年連続受診者数」})}{\text{「当該年度の対象者数」}} \times 100$$


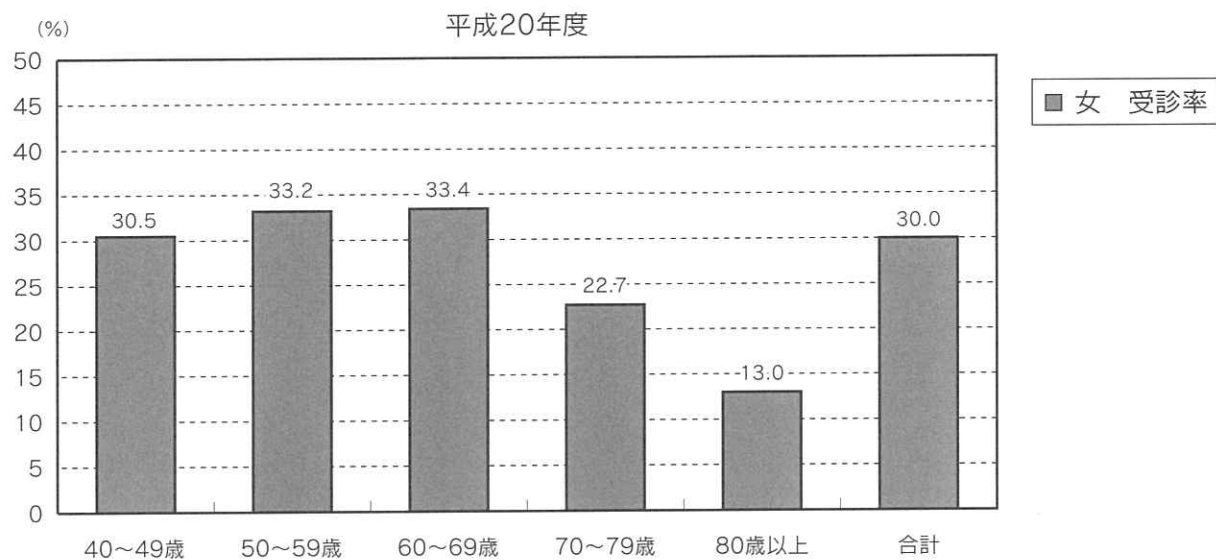
$$\text{受診率} = \frac{\text{「当該年度の受診者数」}}{\text{「当該年度の対象者数」}} \times 100$$

平成19年度の市の子宮がん検診受診率は37.3%であり、県21.4%、国18.8%に比べて高い値を示し、いずれの年も県、国に比べて高い状況にあります。年次推移を見ると、国は平成17年度以降横ばい傾向にありますが、市は増加傾向にあります。平成20年度の受診率は、頸部検診では60歳代、頸体部検診では40歳代が最も高くなっています。

エ 乳がん



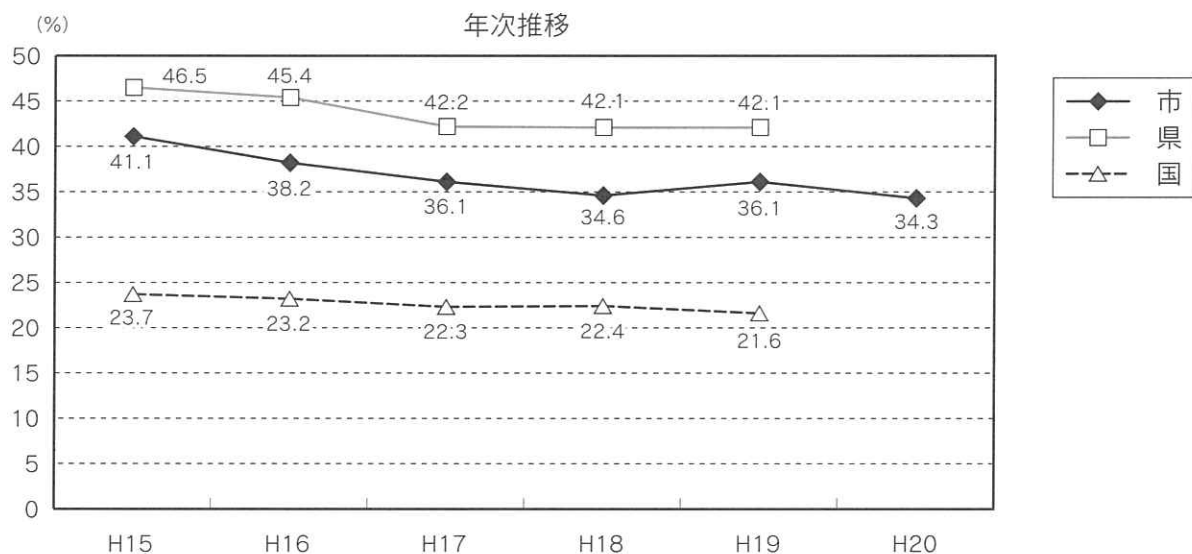
H18年度より受診率算定方法変更
 受診率 = $\frac{(\text{「前年度の受診者数」} + \text{「当該年度の受診者数」} - \text{「前年度及び当該年度における2年連続受診者数」})}{\text{「当該年度の対象者数」}} \times 100$



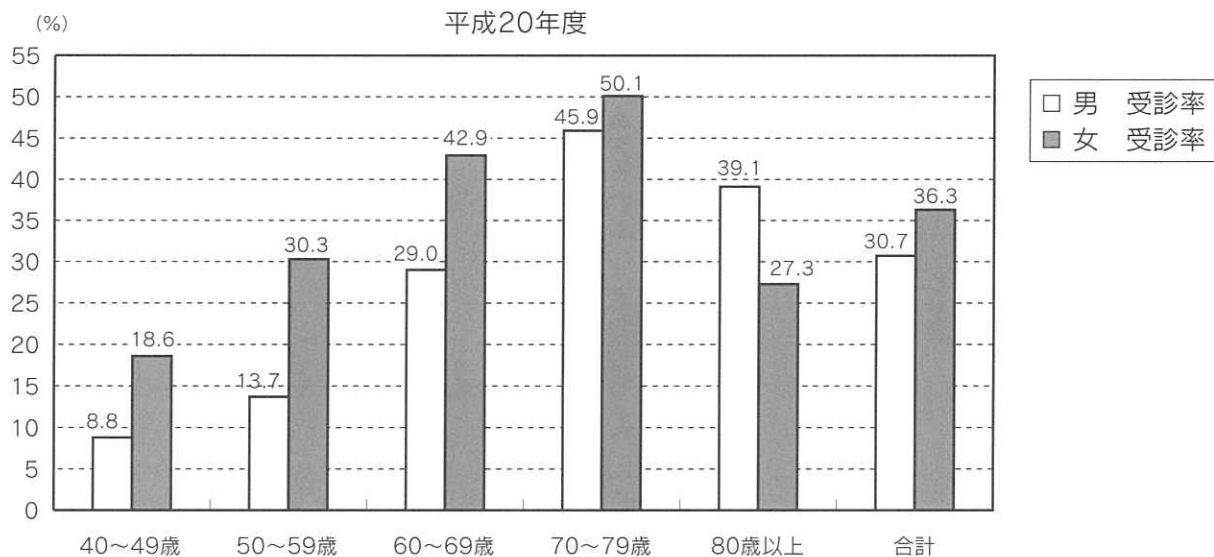
受診率 = $\frac{\text{「当該年度の受診者数」}}{\text{「当該年度の対象者数」}} \times 100$

平成19年度の市の乳がん検診受診率は35.5%であり、県25.0%、国14.2%に比べて高い値を示し、いずれの年も県、国に比べて高い状況にあります。年次推移を見ると、国は横ばい傾向にありますが、市は増加傾向にあります。平成20年度の受診率は、60歳代の受診率が最も高くなっています。

オ 肺がん



厚生労働省「地域保健・老人保健事業報告」



平成19年度の市の肺がん検診受診率は36.1%であり、国21.6%に比べて高い値を示していますが、県の42.1%に比べて低い値となっており、いずれの年も同様です。年次推移は県、国は漸減傾向にあり、市も同様です。平成20年度の実受診率は、40歳代が最も低く、70歳代まで年齢の上昇とともに高くなっています。また40歳から69歳までは男性に比べて女性の受診率が高くなっています。